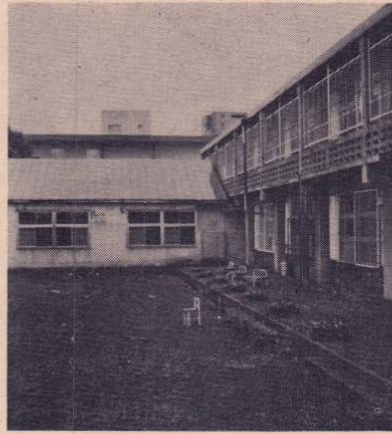


市立総合病院 神経精神科病棟を全面改築

鉄筋コンクリート造り 2階建て



全面改築が決まった神経精神科病棟

56年10月末に完成の予定

ベット数は現在より30床増

市立総合病院の神経精神科病棟が全面改築されることになりました。同病棟では、約九億円をかけて昨年九月から増築していた放射線棟が今年四月に完成、最新鋭の医療機材を導入し、同部門の大規模な強化と近代化が図られたうえで六月から診療が開始されました。今度は、老朽の著しい神経精神科病棟の改築にとりかかることになったのもです。

市立総合病院は、組合病院の一備の方針を決め、四十五年十月解散により、昭和四十一年から市立として開設され、その後四十二年に病舎の全面改築と整備を完成させました。しかし、

その他の施設については財政面の理由で改築が見送られていたのですが、今年四月には放射線棟の増改築事業を終了、続いて神経精神科病棟の全面改築に着手することになったものです。現在の神経精神科病棟は、木造部分が昭和三十四年に、また鉄筋部分は三十六年に建てられ、いずれも老朽が著しいことから総工費約五億円をかけて、今年度木造部分を、そして来年度は鉄筋部分を改築するもので、

今年10月の完成めざし

長木公民館新築に着手

長木公民館新築工事の起工式が七月十一日に行われ、今年十月の完成をめざし、いま盛んに工事が進められています。新公民館は、現在地から西方へ約二百メートル離れた長木小学校敷地西側に建設されているもので、延面積七四三・二平方メートル（講堂は鉄骨造り）、平屋建て、モルタル仕上げとなっています。総工費は六千二百二十九万七千円で、建物工事は三浦木材㈱（三浦久雄代表取締役）、電気設備工事は㈱藤原電気工業（藤原文男代表取締役）、それに給排水設備工事は堺谷施設工業㈱（堺谷義郎代表取締役）が担当しています。

完成予定は今年十月下旬とされ、事務室、研修室（十二畳一室、十五畳二室）、会議室、調理室、図書室、それに九人制バレーボールコート一面がとれる



菅原友笑さん



「全国国民謡舞大会」（日本民謡協会主催）の中年の部で、大館市泉町の菅原友笑さんがみごと「日本一」に。この大会は五月二十二日から二十五日の四日間わたって

全国国民謡舞大会

中年部旗幟優勝 菅原友笑さん(43)

て東京の日本武道館で行われたもので、菅原さんは、秋田民謡のなかでも難しいといわれる「本荘追分」を唄い優勝。「まさかわたし」が優勝できるとは思ってもみませんでした。今年の三月、民謡の先生から大会に出場しなさいといわれたが、忙がしくて練習は大会前の二日間しかやれなかったのです。民謡の道に入ったのは、小さい頃、津軽民謡を歌う芸人が村をまわって来たとき、母に連れられてよく聞きに行ったのがきっかけで、そのうちに口ずさ

このコーナー、珍しい趣味や特技の持主の方々の紹介の予定です。このような方がおりましたら係へご連絡を。〒49-1311内線258

二カ年事業となつていいます。新病棟は、延面積が男女病棟等合わせて二六六二平方メートル、鉄筋コンクリート造り二階建て（一部平屋）となつています。また、最近ではアルコール等の中毒性精神患者や老人性精神患者が急増していることから、この改築によってベット数を現在よりも三十床増やす計画です。工事の行程は、今月中に木造部分の解体と仮病棟の工事を完了させ、新病棟の本工事は九月早々に着手し来春までに完成させることになっており、その後は鉄筋部分の改築、そして来年度は全工事を完了するという予定になっています。



広さの講堂などが適切に配置された近代的な公民館が誕生することになり、生涯教育の推進や地域住民の学習と親睦において役立つものと期待されています。

期待される新エネルギー開発

わが国は、ご存知のとおり世界でも屈指の火山国であり、地熱エネルギーに関する限り資源大国なので、その活用は着々と進んでおり、東北の岩手県・葛根田から九州の大分県・八丁原まで日本列島各所で地熱発電所が噴気を上げて今年度中には合計約二一億kwに達する見込みです。資源エネルギー庁では、この地熱発電能力を、六十年には百万kw、六十五年には三百五十万kw、七十年にはその二倍の七百万kwまでのばす開発目標を立てています。天然の蒸気が噴き出してくるのですから、その力でタービン発電機を回せばよいわけで、原理は至って簡単です。また、これまではほ

⑤「地熱エネルギー」

ほとんど利用されることはなく、再び元の地下へ送り返されていた熱水の活用も有望です。熱水は蒸気と共に噴出しますが、ざっと蒸気の四倍もの豊富な量があるからです。この熱水も、「海水温度差発電」の場合と同様、沸騰しやすいうちのガスを使って発電に利用する方法を、このほど工業技術院が開発、北海道と九州ですべて試験運転に入っています。蒸気発電、熱水発電の併用で、地熱エネルギーの利用は今後飛躍的に増えることでしよう。さらにこの熱水は、地域冷暖房とか温室栽培、寒冷地の融雪など多方面に生かすことも可能であり、小規模ながらすでに利用が始まっています。しかし、地熱発電の候補地の多くが国立公園などの中にあることから、自然との調和と環境問題も抱えており、みんなدةコンセンサスをつくり出す必要に迫られています。

市役所の電話番号は 49-3111

です

市民参加の夏まつり

第十三回夏まつりが十六日に開催されます。過去十二回の反省を踏まえて今年からは新しい企画がいくつか盛り込まれております。特に市内の小、中学生のご協力をいただいたの音楽パレード、一万人踊りの夕方実施と、花火、大文字の問どりと、一万人踊りの新たな職場参加など、文字どおり市民参加への脱皮を図りたいと思っております。単なるお祭り騒ぎが目的ではありません。この行事を通じて市民の連帯意識を高め、郷土感を再確認し、自治意識を高めようとするものです。市民の皆さんのご理解とご参加をお願い致します。

改めて健康を考えましょう

日本人の平均寿命がまた延び、押すも押さ

市長の対話ノート

No. 16

それに応えるかのように会員皆さんが若々としてエネルギーをグラウンドいっぱい発散してくださいました。これこそ長寿の秘訣であると肌身に感じました。それにつけても、先日の会議で話になりましたが、この一月から六月までの間に救急車の出勤回数が昨年同期よりも約一五%も増加しており何が原因かと論じ合いました。結論は出ませんでした。やはり日常の健康管理、つまり病気になる前の対策を本人は勿論、家族ぐるみで行うこと、そして市政のなかでも保健婦による活動など、その機会を多くつくり、地域ぐるみで検診への対応をすすめること等を一体として進めなければならぬと考えます。健康は人生の全てではない。しかし、健康でない人生ほどまじいものはない。 伊山健治郎